

# コテングコウモリ

*Murina ussuriensis* Ognev  
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

本県での生息は限られている。ねぐらとなる樹洞ができる大径木が自然林の伐採とともに消失していることから、生息環境が悪化している。

## 種の特徴

本来は樹洞をねぐらにすると考えられているが、神社等の家屋や人工建造物等の利用が知られている。

## 分 布

北海道、本州、四国、九州に分布する。本県では、池田町の足羽川上流の森林及び敦賀市の防空壕で確認されている。

## 生息を脅かす要因

伐採等による自然林の消失により、本来のねぐらである樹洞及び、ねぐら周辺の餌となる昆虫類の発生場所の消失が挙げられる。

**参考文献** 阿部永ほか (1994)、環境庁編 (1993)、環境庁自然保護局 (1993)、前田喜四雄 (1984)、前田喜四雄 (1979)、日本哺乳類学会編 (1997)、保科英人ほか (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○			○								

# テングコウモリ

*Murina hilgendorfi* (Peters)  
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

ねぐらとなる樹洞ができる大径木が自然林の伐採とともに消失していることから、生息環境が悪化している。

## 種の特徴

本来は樹洞をねぐらにすると考えられているが、洞穴の利用が多く知られている。繁殖についての詳細は不明である。餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する。

## 分 布

北海道、本州、四国、九州に分布する。本県では6市町で生息が確認されている。

## 生息を脅かす要因

伐採等による自然林の消失により、本来のねぐらである樹洞及び、ねぐら周辺の餌となる昆虫類の発生場所の消失が挙げられる。

**参考文献** 福井県 (1999)、阿部永 (1994)、環境庁編 (1993)、環境庁自然保護局 (1993)、前田喜四雄 (1984)、日本哺乳類学会編 (1997)、保科英人・養輪隆範 (2005)、百崎孝男 (2009)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○				○			○			○	○	○

# カワネズミ

*Chimalogale platycephalus* (Temminck)  
モグラ目・トガリネズミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

## 選定理由

生息場所は、山間部の水質の良い溪流に限られる。残存する生息場所も、河川改修等により生息環境が悪化しているほか、工事に伴う濁流等により容易に絶滅する危険性がある。

## 種の特徴

山間の溪流付近に生息し、夜間に活発に活動するが、日中にもみられる。主に河川を泳ぎながら、水中や水辺で小動物(小魚、水生昆虫、カエル、カワニナ等)を捕食する。河畔の土中や石の下に巣を作り、春と秋に2~3頭の子を産む。

## 分 布

本州・九州の低地~高山の山間部の溪流に生息する。本県では情報が少なく、これまで大野市、池田町で生息が確認されている。

## 生息を脅かす要因

生息場所となる山間部溪流における河川改修、砂防ダムの建設及び河畔林伐採等の溪流環境の改変、河川工事に伴う濁流の発生が挙げられる。

**参考文献** 阿部永 (1994)、福井県 (1998)、日高敏隆 (1996)、三原学・大迫義人 (1999)、保科英人 (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	